

07.

教育委員会

教育委員会

森安 史典

(東京医科大学第4内科)

超音波医学会では、他の学会に比べて、教育事業の重要度が高いと言える。なぜなら、専門が多くの領域に跨っていることに加え、工学的基礎的な研究領域を含むことによる。自分が専門としている領域以外の事を知ることができるのが、本学会の特徴であり、したがって、他の専門領域の、最新の研究内容のみならず、総説的、啓蒙的な内容を知ることのできる教育的事業が必要とされる。

また、正会員の若手医師や、準会員の超音波技師の教育も、学術集会や学会主催の講演会を通じて行なわれる。

本学会が主催する教育事業としては、「超音波診断講習会」と「教育セッション」がある。超音波診断講習会は、1年度内に通常3回行なわれるもので、循環器（主に血管）、消化器、乳腺の各領域の講演会が行なわれる。1日開催で各領域の基礎的内容から先進的な研究まで幅広い講演を聞くことができる。100名から200名の参加がある。

教育セッションは、日本超音波医学会学術集会の際に同じ会場で開催される教育的な講演会である。会期は2日間で、この間に基礎の領域を含むほぼ全ての専門領域をカバーしている。各領域とも初級・中級・上級に分けた講演により構成される。2日間のプログラムは、学術集会のプログラムの領域別の発表や講演と重ならないように、学術集会会長と事前に打ち合わせた上で構成され、聴講者の利便性が図られている。

超音波診断講習会や超音波教育セッションは、技術的な教育の側面が強いため、講師の選定や講

演内容など、教育委員会での議論も熱を帯びることになる。

超音波診断講習会や超音波教育セッションを受講すると、超音波技師資格や超音波専門医を更新するのに必要な点数（クレジット）が付与される。このインセンティブによって受講の姿勢が更に向上し、また教育効果も上がっている。

超音波診断講習会や超音波教育セッションを受講する機会を逸した人のために、講演のデジタル化を行なっている。超音波診断講習会や超音波教育セッションのその回毎のDVDを作製し、販売している。教材として、DVDを購入し聴講すればクレジットが付与される。聴講したことを担保するために、DVDに試験問題が添付してある。DVDを聴講していれば比較的容易に解答できる基本的な問題で構成されており、答案を学会に送付し合格点に達していればクレジットが付与されるしくみである。

2012年からは、DVDの作製、販売に代えて、インターネットを通じて教材をダウンロードする仕組みに変えた。これにより、既刊のDVDのバックナンバーを在庫する必要がなく、また受講者の利便性も向上した。

近年、若手医師の超音波離れが進んでいることが危惧されている。在宅医療に代表されるように、臨床における超音波診断のニーズは、その質も量も著しく増加・上昇している現在、多くの領域、とくに内科の領域における医師の超音波診断技術・知識の向上が必要である。最近の若手医師は、自分の患者さんの超音波検査においても、自

らプローブを持たず、技師に検査を依頼する傾向が強い。それは、研修医の時に超音波診断の基礎を十分身につけていないことが原因の一つと考えられる。

以上のことから、千田理事長は研修医の超音波教育を学会として推進する強い意欲を示され、教育委員会を中心とした議論を経て、第85回日本超音波医学会学術集会において「研修医の超音波教育」と題するワークショップが開催された。メインの第1会場で行なわれた本ワークショップには、予想を超えて多くの聴衆が参加し、研修医の

超音波教育に関する関心の高さが示された。

講演と座談会を通じたワークショップで、「誰が」、「何を」、「いつ」、「どのように」研修医の超音波教育を行なうかの一定のコンセンサスが得られた。これをたたき台にして今後、カリキュラムやシステム作りが進んでいくものと期待される。

以上述べてきたように、日本超音波医学会の教育的な事業は幅広く展開されてきた。今後も更に教育的な事業が進展し、日本における超音波医学の進歩に寄与することが期待される。